



アンテナ 出東

発行/出東コミュニティセンター企画広報部 お問い合わせ/TEL 0853-62-5033 FAX 0853-62-5039

●世帯数 ……1,259戸
●人口 ……3,923人
男性/1,935人 女性/1,988人
令和4年9月30日現在

10月28日 金 製鉄と中世のロマンに触れた一日 「生き生き一日研修」

自主企画事業/高齢者福祉部

初めに訪れた和鋼博物館では、たたら製鉄の映像を見た後、学芸員の竹田さんの解説で、古来の技と伝統を活かしたたたら製鉄の特長やその歴史、流通のことなど、詳しく説明を受けました。また本物の日本刀を手に持つコーナーで、参加した人たちは一同に緊張した面持ちで「思っていたより重い」などと感想を述べていました。



その後訪れた安来市歴史資料館では平原館長に、月山富田城がなぜ難攻不落の山城であったのかななどの説明をもらい、ユーモアある語り口に参加者は熱心に話を聞き入っていました。天候にも恵まれ、健脚な人は太鼓壇まで散策し実際の山城の様子を体感。中世の覇者、尼子氏隆盛の時代に思いを馳せていました。

10月30日 日 みんなの願いを込めて! ペットボトルツリー点灯☆

自主企画事業/子育て部



コミセン子育て部のメンバーを中心に、東中学校ボランティア、出東小PTA家庭教育部、出東mama塾の皆さんが協力して製作。今年は出東小の子どもたちの願いを色とりどりのカラーセロハンに書いたカラフルなペットボトルツリーに仕上げ、コミセン玄関横ロビーに設置。25日のクリスマスまで、毎夜夕方5時から10時までライトアップされています。

軽体操クラブ

貯筋で健康生活 楽しみましょう!

サークルさん ++ いらっしや〜い ++

待ってま〜す!

活動の目的はフレイルの予防、つまり健康寿命(自分のことは自分でできる)を、できるだけ長く保つこととしています。

このクラブの前身は、昨年8月から12月にかけてコミセンで定期的実施されていた「体と心の活性化教室」です。終了後に参加者の皆さんから「もっと続けよう」との意見が多く、すぐにクラブを立ち上げましたが、コロナ禍の中、実際の活動は今年3月からとなりました。

現在男女19名が、月2回火曜日にコミセン集会所で活動。会費は月1,000円。健康運動指導士の勝部真理子先生の楽しい指導の下、普段あまり使わない筋肉を意識したエクササイズや、誰にでもできる脳トレも兼ねたゲーム感覚の体操に汗を流しています。

「貯金は使うと少なくなりますが、貯筋は使うと増やせます!」さあ皆さん、貯筋をして、つまづいたり転んだりしないようにしましょう!



10月30日 日 荘原・出東 一斉クリーン大作戦

環境保全連合会出東支部

今年で9回目を迎えクリーン大作戦もすっかり地域に定着、各自治会から家族や親子連れなど多くの方が参加しゴミ拾いに取り組みました。活動の終わる午前9時頃には沖洲天満宮前や出東小学校などの集積場所に次々とゴミが集められ、コミセンに運ばれてきました。

缶や瓶などの不燃物や、農業用ビニールなどのゴミが多かったようですが、毎年参加しているという男性は「徐々に拾うゴミは減っていて、逆に探すのが大変な場所もある。それだけ環境意識が高まっている証拠で大変良いことだ」と話していました。普段からひとりひとりが気に掛けることで、ポイ捨て防止につながります。皆で少しずつ意識を高め、クリーンな出東をつくっていきましょう。



12月 出東地区 行事予定

- 1日(木)・21日(水) ふれあいサロン
 - 3日(土) しめ縄作り体験
 - 3日(土) 指定事業自治会研修(第1振興区)
 - 8日(木) 自治協会理事会
 - 10日(土) しいたけ原木栽培体験
 - 10日(土) 指定事業自治会研修(第14振興区)
 - 1日(木)・14日(水) 虹教室
 - 15日(木) コミセン喫茶
 - 23日(金) 小学校終業式
 - 24日(土) サンタクロース宅配企画
- ※詳しくは、今月配布のチラシをご覧ください。

年末年始 休館のお知らせ

INFORMATION 2022.12/29(木)~2023.1/3(火)
12月29日(木)から翌年1月3日(火)までの5日間、出東コミュニティセンターは休館となります。ご不便をおかけしますがご了承をお願いします。

The Voice ~皆さまからの声~

毎日湖岸を歩いています。そこで気になるのは、宍道湖岸、集水路共にゴミがとても多いことです。大水などによる流出中にはあるでしょうが、大半は投棄されたものと思われる。これ一つくらいと軽い気持ちで投げ捨て、流れて目の前から去ってしまうと何も感じなくなってしまうのですが、それらの行き着く先の下流部は目を覆いたくなる有様です。手から離す前に一度その先のことを考えて頂きたいと切に思います。(松江分・70代男性)

●皆さんの声を募集しています!!

ご寄付お礼
皆様からお寄せいただきましたお志は、出東地区の福祉事業に活用させていただいております。
香典返し 金一封 植田 辰夫 様(資生自治会)
ご厚志誠にありがとうございました。

島根県選抜選手として 全国大会で活躍する野球少女

輝きを放ち、地域で活躍しているさまざまな人に焦点を当て紹介する「キラリ出東びと」を随時掲載していきます。第1回は、全日本中学生女子軟式野球、島根県選抜チーム「スマイルヒオニーしまね」で活躍する山根瑠華さんです。



野球大好き!!

県選抜選手として気を吐く女子野球 山根瑠華さん

女子野球全国大会に出場し、気を吐く中学生が出東にいる。斐川東中1年の山根瑠華さん(12)は坂田・醇厚自治会11だ。山根さんは今年8月、京都市で開かれた全日本中学生女子軟式野球大会に島根県選抜「スマイルヒオニーしまね」のメンバーに抜てき。試合結果は残念ながら1回戦で高知県のチームに敗れたが、5回以降は右翼手として活躍したほか、10月中旬、川本町で開かれた中国地区女子野球大会にも出場した。山根さんは一つ上の兄、聖柳さんが出東野球スポーツでプレーする姿を見て「楽しそうだし自分もやってみよう」と、小3の時に同スポーツ少に入団。5年生になると各種大会に出場するようになった。6年生から捕手にコンバート。主将も務め、ソフトバンクの和田毅投手が主宰する「和田杯」では、実行委員特別賞を受賞するなど注目を集めた。

斐川東中に進学後は兄と共に男子部員に交じって野球部に入部し、外野手としてプレー。その実力が認められた。休みに家で父親や兄とキャッチボールに余念がない。高校でも野球を続けたいと、さっぱり県内の女子チームは限られていてるので、広島県の高校に進むのか、早くも迷っている段階。身長155センチ、学校では比較的背が高い部類だという。母親の真由美さんは「誰に対しても優しく接し、すぐに仲良くなるから」と娘を称える。インタビュー時、少しはにかみながら時折見せる笑顔も、時と場合に応じて、女子中学生そのもの。将来は「人の役に立つ仕事したい」と未来に思いを馳せる。今後一層の活躍を期待したい。



出東野球スポーツ少年団 監督 今岡 祐樹 さん

スポ少時代の様子

瑠華さんが6年生になった時、初の女子キャプテンを任せ、持ち前の明るさ、周りへの気配り、負けん気をチームメイトに見せ上手くチームをまとめてくれました。チームの事を一番に考え行動し、出東で野球をする上で最も大切にしている「人として出来る事はやる」を自らやり、チームの手本として大きな背中を見せて、チームを引っ張ってくれた。努力すれば努力した分成果が出るという事を示してくれるほどの努力家で、試合のポイントで活躍してくれました。それが今の彼女の活躍につながっていると信じています。

インタビュー



人権 コラム 人権について考えてみよう (Vol.3)

12月4日(日)~12月10日(土)は「人権週間」です。

さらに、12月10日は、世界人権宣言が採択されたことにちなんで定められた「世界人権デー」です。家庭や地域、職場などの身近な人と、自分にとってちょっと気になる人権問題について話題にしてみましょう。

出東人権キャラクターが決まりました。斐川東中2年 杉谷六花さんの作品です。キャラクター名 思いやりー 「みんなで仲良く」というイメージで描きました。キャラクター一人一人に特徴を持たせ、一人一人の個性を大事にしたいという思いを表現しました。(杉谷六花さんより)

話 × 輪 × 和 = 笑顔で寄り添うまちづくりのスローガンにぴったりです。

7月~10月
**毎回定員を超える盛況ぶり
 スマホ教室**
 自主企画事業/企画広報部

7月30日から土曜日、6回シリーズでドコモショップゆめタウン斐川店のスタッフを講師に、「始めよう!楽しもう!スマートフォン教室」が開かれました。基本操作からスタートし、文字入力や写真撮影など段階ごとに学び、最終回はLINEを実践。毎回質問時間も設けられ、普段分からない点の説明も受け、参加者の男性は「意外と知らないことも多く勉強になった」。別の女性は「スマホで孫とやり取りが楽しくなる」と話していました。

10月8日 土
**小学校
 花植え活動に参加**
 出東小学校

小学校PTA家庭教育部の親子花植え活動にコミセン環境部から8名が参加し、一緒に小学校の花壇に花植え作業を行いました。キンギョソウやピオラなど色とりどりの花を、先生や保護者、子どもたちが一緒になって一株ずつ丁寧に植えていました。真ん中の丸い花壇には、黄色と紫色のピオラをニコちゃんマークになるように配置。植えた時点では、まだ花が小さくニコちゃんマークには見えませんが、参加した児童のひとり「来年の春、ニコちゃんマークの花が学校の花壇を飾る日がとても楽しみ」と嬉しそうに話していました。

10月12日 水
**斐川地域の青パト隊が集結
 合同一斉パトロール**
 出東子どもの安全を守る会

防犯見回り活動を展開する町内7地区1団体の青色防犯パトロール隊(青パト隊)の車両約30台が出東コミセンに集結し、斐川地域合同一斉パトロール出発式が行われました。出雲署生活安全課の佐藤課長、斐川行政センター遠藤所長から「子どもたちの安全安心をボランティアで守っていただいている皆様に改めて感謝します」と謝意が述べられた後、出東子どもの安全を守る会の常松耕治代表が出勤申し、パトカーを先導に一斉パトロールに出勤しました。その後、出東地区では青パト連絡会を開き、警察署員から犯罪件数の推移や特殊詐欺の手口、撃退法のポイントなどを聞いたほか、「SOS子ども駆け込みの旗」の設置場所を印したマップをもとに意見交換が行われました。

10月1日 土
赤碕文化センター視察研修
 出東地区人権・同和教育推進協議会

出東地区人権・同和教育研究指定事業推進委員会の16人で、鳥取県琴浦町の赤碕文化センターへ人権・同和教育の視察研修に出掛けました。出東地区が本年度から2年間、同事業の指定地区となったことから、同和教育・対策に力を入れている同センターへ視察したもので、現地研修を通して、部落差別の現実、人と人との出会いとつながりから差別解消に向けた活動などを学びました。参加した男性は、同地区の圍場整備の歴史に触れ「お互い話し合いを重ね、皆の豊かさを考えた結果、地区外の人たちも参加してくれた。話し合うことでお互いを理解し合うことの素晴らしさに触れた思い」と熱く感想を話していました。

10月15日 土
**青空の下、宍道湖畔の自然を満喫
 出東健康ウォーク**
 自主企画事業/健康推進部

天気にも恵まれた絶好のウォーキング日和の中、健康づくりの会と共催で出東健康ウォークが行われました。大人から子どもまで88名が参加、今年はお出東コミュニティセンターから十四間川堤防を通過して宍道湖のなぎさ公園までの往復8.3kmのコースを、水鳥や景色を楽しみながら秋の澄んだ空気に触れ歩きました。空港公園では〇×クイズを開催し、勝者にはシジミがもらえるとあって参加者は真剣そのもの。大きな歓声が沸き上がっていました。少し長めの距離ながら、5歳から小学生の子どもたちも汗を浮かばせ頑張っており、やり切った達成感をしっかり味わいゴールを喜んでいました。またPTA保体部のボランティアの方には、要所で立哨していただき安心してウォークすることができました。参加した一人は「宍道湖沿いの土手は眺めも良く、出東の名物コースにしたい」と話していました。

10月21日 金
**芋掘り体験に
 大はしゃぎ**
 出東小学校

爽やかな秋晴れの中、出東小学校1年生24人が校舎北側の畑で芋掘り体験をしました。出東地区社会福祉協議会の中間会長から「上手に丁寧に掘りましょう」と掛け声の後、シャベルを片手に次々と出てくるサツマイモに大はしゃぎ。子どもたちの頭ほどの芋を掘り出すと「かぼちゃみたい」「焼き芋で食べたい」と、目を輝かせながら話していました。収穫したサツマイモは学校で蒸かし芋にして、児童の家庭に配られるということです。

10月19日 水
**第2回出東地区自治協会
 代議員会を開催**
 出東地区自治協会

JA出東支店を会場に、第2回出東地区自治協会代議員会が開かれました。初めに持田自治協会長より「自治会の在り方についてアンケートを実施した。隣近所のつきあいが希薄になっている中、どうあるべきかを考えていく機会にしたい」とあいさつ。続いてセンター長から「高齢化・担い手不足が深刻化している現状に加え、コロナ禍で近隣のつながりが希薄化している。こうした中、アンケートを通して自治会長から多くの貴重な意見をいただき、自治会の現状・課題が明確になった」と説明がありました。参加した自治会長からは「具体的な課題を放置せず、解決に向けたプロセスを明らかにしてほしい」など積極的な意見がありました。その後、文化祭の日程と内容説明、出東デイサービスセンターからの依頼などが行われ、会終了後には、延期となっていた人権・同和教育指定事業の自治会研修の日程調整が行われました。自治会アンケートの集計結果は、自治会に回覧で配布されています。

10月22日 土
**島根原子力発電所
 視察研修**
 出東地区自治協会・災害対策委員会

原子力災害時には緊急避難路としても利用が想定される古浦西長江トンネル経由で島根原子力発電所へ。発電所の概要を学んだ後バス内から構内を見学。建設中の3号機や海抜15mの防波壁などを間近にし、福島第一原発事故を教訓に、地震、津波、テロなどに対し二重三重の安全対策が施されていることを学びました。午後からは島根県原子力防災センターを訪れ、原子力災害発生時の対策がどのように行われるのか、原子力規制委員会の小山さんから説明を受け、参加者は皆熱心に聞き入っていました。島根原発の現状を知り、防災意識の高揚を図ろうと自治協会と災害対策委員会が企画。自治会長など18人が参加しました。

コラム
地域のために頑張ってます!!
出東更生保護女性会って何しているの?
「更生保護女性会出東支部」
 今年、人権の木を作りました

「難しくかたい言葉!」
 「更生保護」とは、非行や犯罪に陥った人たちが、再び社会の一員として立ち直るのを助けようとする制度です。その支えにより多くの人たちが立ち直っています。地域に活動の基盤を持つ女性会は、「更生保護」の土壌を創りあげるために活動をしています。
 「支部でどんな活動をしているの?」
 次代を担う子どもたちの健やかな成長を願い、37名の会員が自費で、使わなくなった着物や帯、布の再利用による「手作り」活動を行っています。出東文化祭チャリティーバザーの収益で、12月には、子ども園・小学校に絵本、図書カードを贈呈。3月は、会員で花の植え込みをしたプランターを直接子どもたちに手渡し、心豊かに育てほしいと願い交流しています。
 「ほかにもあるの?」
 毎年12月「出東デイサービスセンター」へ出掛け、障子貼りなど館内の清掃活動や、毎月第2水曜日の朝に、小・中・高の児童生徒さんへの見守り、声掛けを長年続けています。このような実践活動に加え、各種団体、さまざまな施設、教育機関と連携し、自己研鑽を積み重ねています。女性の皆さん、活動に関心を持っていただき一緒に活動しませんか!一つ一つの積み重ねが、明るい社会につながることを信じて…。

～松江城保存に尽力した出東村の豪農～
『勝部本右衛門親子』
出東歴史散歩 Vol.3

勝部家は出雲郡出東村(現在の坂田大沢)の地主、豪農であった。代々、本右衛門(もとえもん)を名乗り7代目栄忠(ひでただ)は茶道や書画、和歌をたしなむ文化人でもあった。8代目景浜(かげはま)は銅山開発事業、社会文化事業にも注力した。明治時代の初期、新政府は廃城令を出し、各地の城郭は次々と取り壊された。松江城は1871年に廃城が決定し、天守は陸軍省広島鎮台の管理となり、民間に払い下げられた。1875年には入札が始まり、180万円(現在の約120万円に相当)で落札が決まった。勝部家は松江藩のもとで銅山経営をおこなっており、屈指の財力を持つ豪農として知られていた。

銅山の経営指導に当たっていた、松江藩「銅山方」役人の元藩士、高城権八は広島鎮台の入札責任者に、落札金額と同じ金額を納めるので天守閣だけでも残してほしい、と懇願した。銅山の仕事を通じて知り合いであった高城権八から松江城天守閣解体の話聞いた勝部親子は、買い取りを決意し、落札金額と同額の180万円を広島鎮台に納付した。松江城天守は勝部親子により買い取られ、廃城を免れたのである。こうして、松江城天守閣は勝部本右衛門親子と高城権八の尽力により解体の危機を乗り越え、現在は、「国宝松江城」としてその姿を今日に留めている。勝部本右衛門親子は、万蔵寺川のほとり徳林寺跡の墓所に静かに眠っている。

勝部本右衛門墓所

おじゃまします
 出東のお仕事拝見! Vol.3

ニコニコ園芸
 代表は角田美比古さん

代表は角田美比古さん(48)。出身は広島県呉市。関西の大学を卒業後、大阪市でサラリーマンを経験したが、体調を崩し自分のペースで出来る農業を模索。大学時代に知り合った美和さんと結婚し、奥さんの故郷出東の実家近くに居を構えた。もともと生物が好きだったといい、「園芸をやってみようか」と、21年前に三分市の花卉栽培農家の門を叩いた。3年間花づくりの技術をみっちり学んだ後の平成16年に独立。現在ハウス5棟で経営、美和さんと従業員3人の計5人でマリーゴールドや金魚草、ポーチュラカ、シクラメンなど年間を通して約30種の花を生産している。「せっかく育ったのに病気になるって捨てるのが一番悔しい」

代表の角田美比古さん

と、「今後、アジサイなど新しい銘柄にもチャレンジし、前の年よりもっと品質の良いものを作りたい」と張り切る。地域活動にも積極的に関わり、仕事以外でも多方面で活躍する。ちなみにニコニコ園芸は、名字の角田(かくだ)が覚えてもらいにいくことから、「すぐに知ってもらえるネーミングにした」とのこと。

INFORMATION
 ニコニコ園芸
 ●斐川町中洲1275番地 ●創業平成16年 ●従業員数5名